

宮崎県日南市における在宅 医療・介護連携推進事業

～Sunオーリーブによる多職種連携事業の取組～

平成29年11月30日(木)
平成29年度第5回九州厚生局
地域包括ケア市町村セミナー
<沖縄県庁>



広島東洋カープ、埼玉西武ライオンズ、横浜FCのキャンプ地



日南市の人口	53,402人
日南市の面積	536.11km ²
平均気温	18.7℃
宮崎空港から	車で50分

日本一を誇る産品



一本釣リカツオ



スイートピー

みやざきオリジナル
スイートピー



キャビア(チョウザメ)

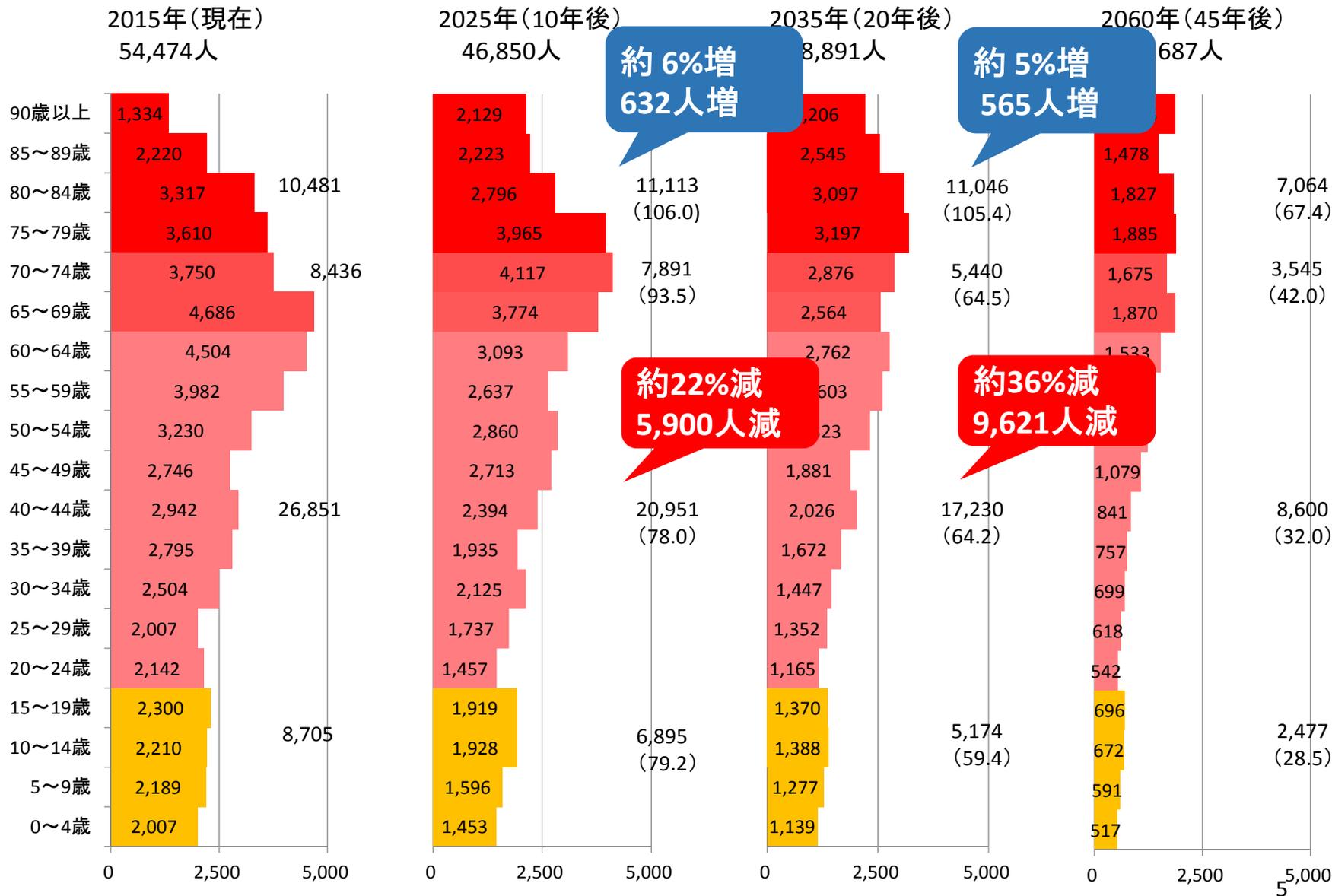


那覇市との姉妹都市盟約締結 昭和44年4月24日



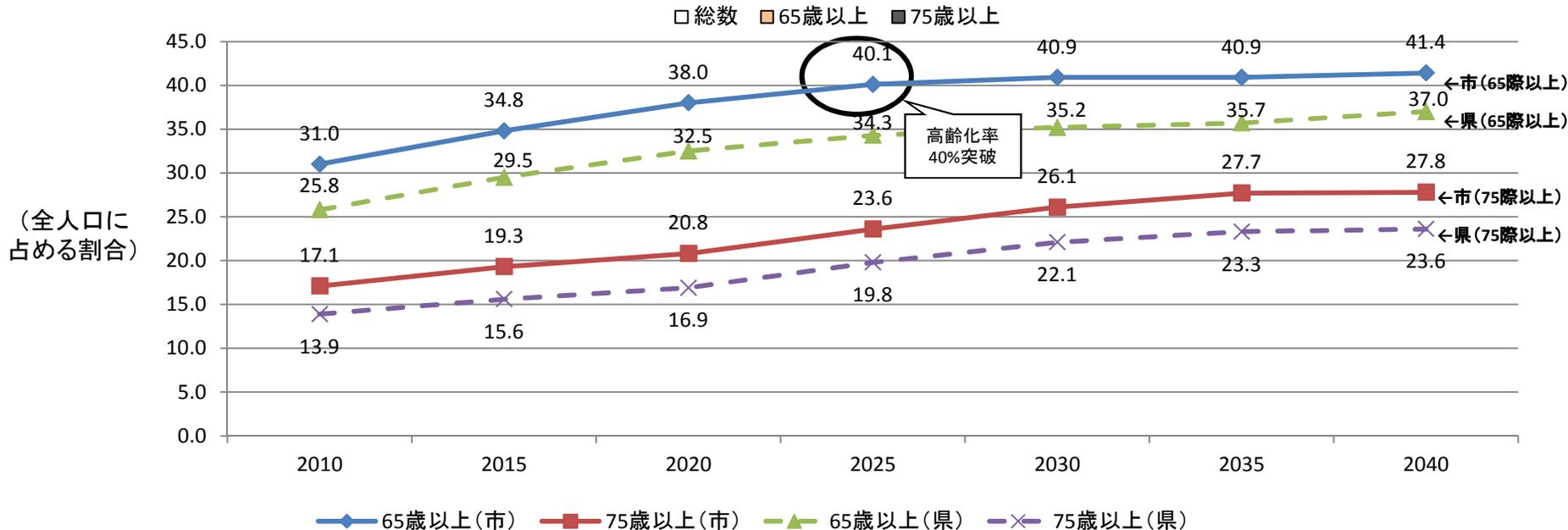
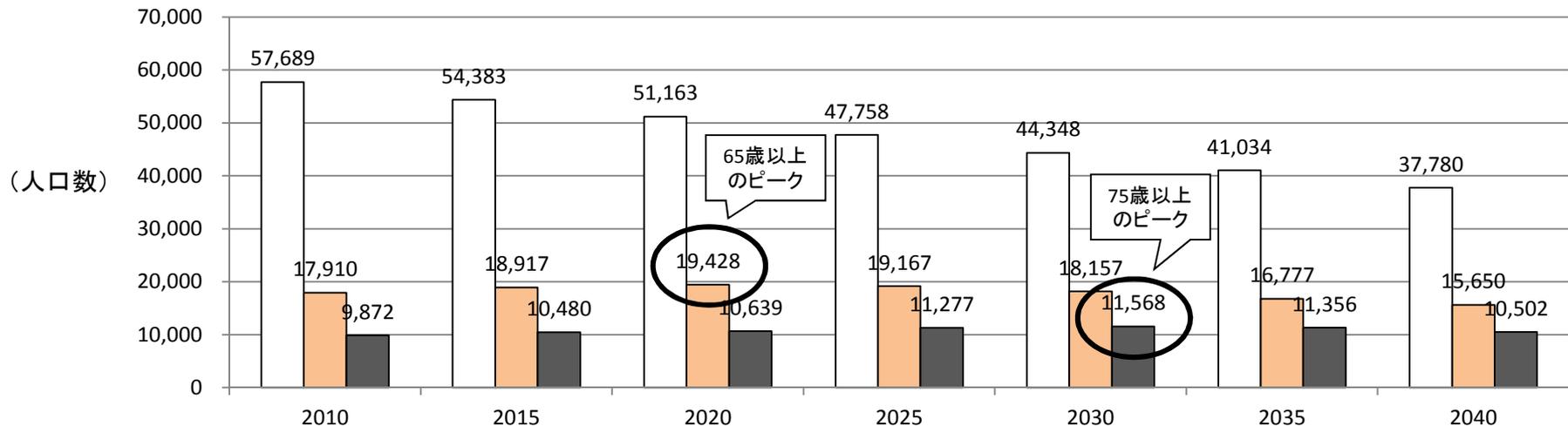
日南市のデータ

日南市の人口ピラミッド推移



日南市の人口推計

データ: 国立社会保障・人口問題研究所



日南市の人口と高齢者数、高齢化率と認知症高齢者数

(単位：人、%)

年 度	人 口	高齢者数	高齢化率	認知症 高齢者数
H26	56,829	18,767	33.0	2,681
H27	56,130	18,987	33.8	2,712
H28	55,293	19,273	34.9	2,753
H29	54,610	19,345	35.4	2,764
H32(2020)人口ビジョン	52,307	19,319	36.9	2,760
H37(2025)人口ビジョン	49,955	19,060	38.2	3,812
H42(2030)人口ビジョン	47,763	18,062	37.8	3,612

※ 人口と高齢者数は住民基本台帳による

認知症高齢者数はH32までは7人に1人、H37とH42は5人に1人で推計

日南市の医療・介護サービス資源

○保険医療機関・保険薬局の数

(平成29年9月1日現在)

区分	病院	医科診療所	歯科診療所	薬局
箇所数	9箇所	38箇所	24箇所	33箇所

○介護保険施設・事業所の数

区分	居宅介護 支援事業所	訪問介護	訪問看護	通所介護
箇所数	28箇所	32箇所	4箇所	42箇所
区分	特養	老健	グループホーム	小規模多機能
箇所数	5箇所	4箇所	4箇所	3箇所

地域包括ケアシステムに関連する部署

部署	室・係	施策
長寿課	高齢者支援係	認知症、介護予防
	介護保険係	
健康増進課	健康推進係	
	生活習慣病対策係	
	地域医療対策室(25年10月)	地域医療
中部病院	診療課	
	看護課	
	病院事務局	
	在宅医療・介護連携推進室(27年4月)	医療・介護連携

地域医療対策事業の充実

【基本目標】

市民の皆さんが安心して暮らせるために、
必要な時に必要な医療を受けられる環境の整備

【課題】

- 医療人材の確保
- 小児科、産科医不足
- 救急医療を担う医師負担の軽減
- 在宅医療・介護の連携
- 市立中部病院の健全化
- ・
- ・

平成25年10月1日

地域医療対策室設置



※延岡市、小林市に次いで3番目

在宅医療・介護連携推進協議会の設置

在宅医療・介護連携の推進に向けて

26年6月5日設置



日南市在宅医療・介護連携推進協議会

在宅医療に携わる関係者(医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、ケアマネージャー、栄養士など)が集い、在宅医療に関する課題解決を図る。



在宅医療支援体制
構築WG

情報共有システム構築
WG

研修・広報WG

日南市在宅医療・介護連携推進室

「Sunオリーブ」



平成27年4月1日 中部病院内に設置

【目的】

在宅医療と介護の連携を推進するために、多職種連携のコーディネーターや関係機関の調整、市民啓発等を行う。

【体制】

職名	氏名	職種	辞令区分	備考
1 室長		一般行政職	兼務	病院事務局長
2 室長補佐		一般行政職	兼務	病院事務局次長
3 室長補佐		保健師(ケアマネ)	兼務	地域医療科長
4 室長補佐		一般行政職	専属	
5 主査		看護師(ケアマネ)	兼務	地域医療科
6 MSW		社会福祉士	専属	
7 スーパーバイザー		医師	兼務	宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

今すぐやることと、今すぐやってはいけないこと

- ア 地域の医療介護資源の把握
 - イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- 今すぐやるべきこと

ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進 **ここが本丸!!**

- エ 医療・介護関係者の情報共有の支援
- オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- カ 医療介護関係者の研修
- キ 地域住民への普及啓発
- ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

ア～イで方針が決まって、ウをやる段階で、やらざるを得なくなる事項。ウが決まるまでは、着手するのは良いとして、何かあまり進んだ気がしないのは当然と考える。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握

○市内の医療・介護機関の所在地、基本情報、サービス内容を把握しリスト・マップを作成、活用する。

The screenshot shows a web interface for a home medical cooperation hub. It includes a map of Niigata Prefecture with markers for various medical facilities. Below the map is a table listing the facilities with their names, addresses, and phone numbers. The table is as follows:

施設名	地区	住所	TEL
愛泉会日南病院	東郷	宮崎県日南市大字風田3649番2	0887-23-3131
おび中央病院	銚肥	日南市銚肥6-2-28	0887-25-2525
谷口病院	東郷	日南市大字風田3851	0887-23-1331
日南春光会病院	東郷	日南市園田1丁目4-2	22-2324
日南市立中部病院	細田	日南市大堂津五丁目10番1号	0887-27-1111
東病院	南郷	日南市南郷町東町8番地1	0887-64-1500
宮崎県立日南病院	油津	日南市木山1丁目9番5号	0887-23-3111
東内科クリニック	吾田	日南市上平野3丁目8-8	0887-32-1001
医療法人 済和会 山元クリニック	吾田	日南市上平野町2丁目15番地7	22-2552
医療法人 信愛会 山見医院	吾田	日南市中央通1-3-1	23-2101
医療法人 津曲小児科	吾田	日南市戸高1-6-3	22-2175
医療法人 山元クリニック	吾田	日南市上平野町2丁目15番地7	22-2552

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

(イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

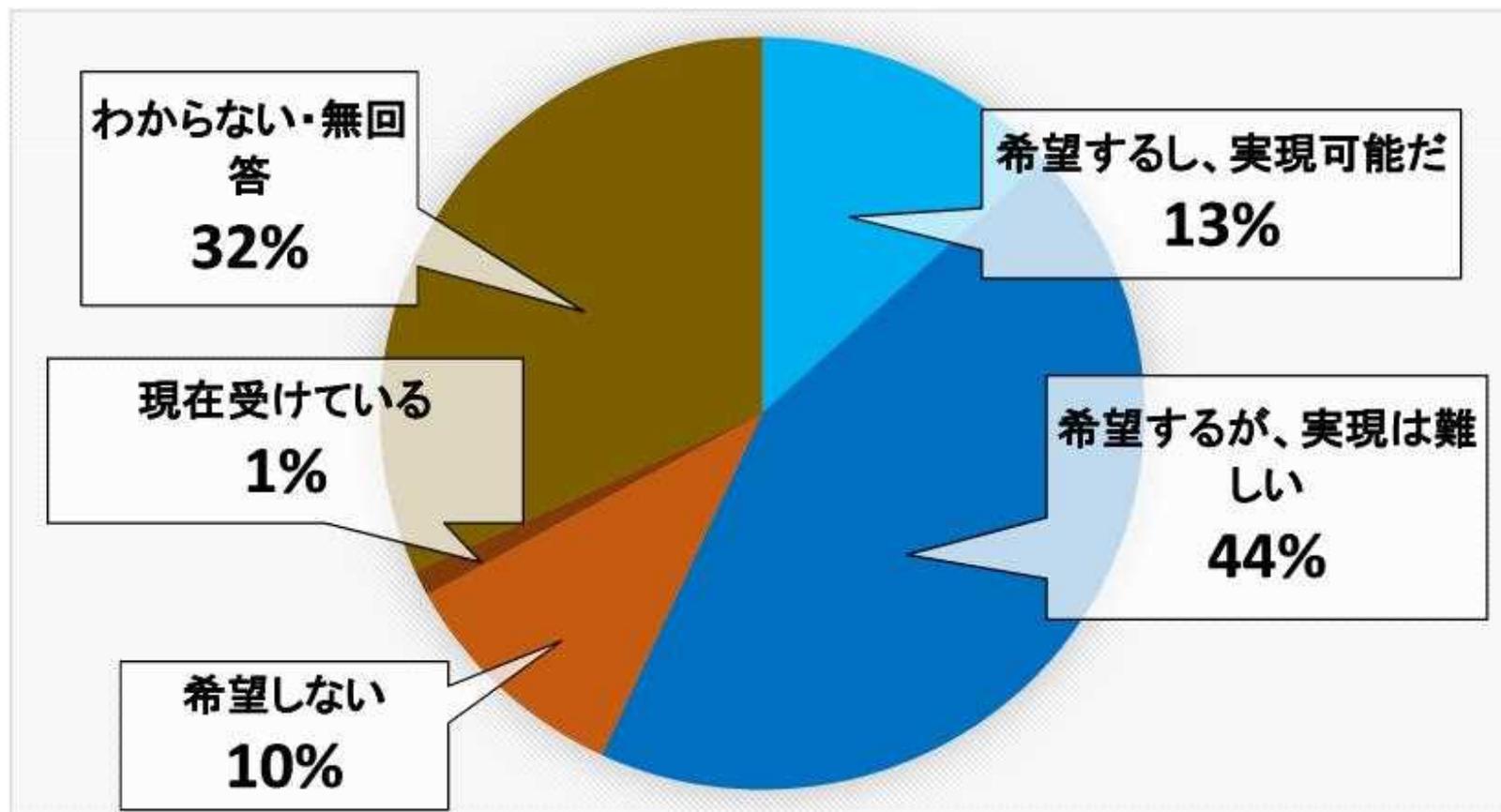
◎在宅ケア研究会(医師会主催)への参画

- ▶毎月1回(第2火曜日)夜に南那珂医師会で開催。
- ▶目的は、多職種が一堂に会して「在宅ケア」をキーワードにそれぞれの取り組みを報告、事例検討などを行い、より良い在宅ケア体制づくりを目指す。
- ▶医師、歯科医師、薬剤師、セラピスト(PT、OT、ST)、看護師、保健所、ケアマネ、行政、介護施設、民生委員などの参加。
- ▶平成7年4月に第1回を開催し、29年12月で270回目。

多職種が集まってディスカッションする場

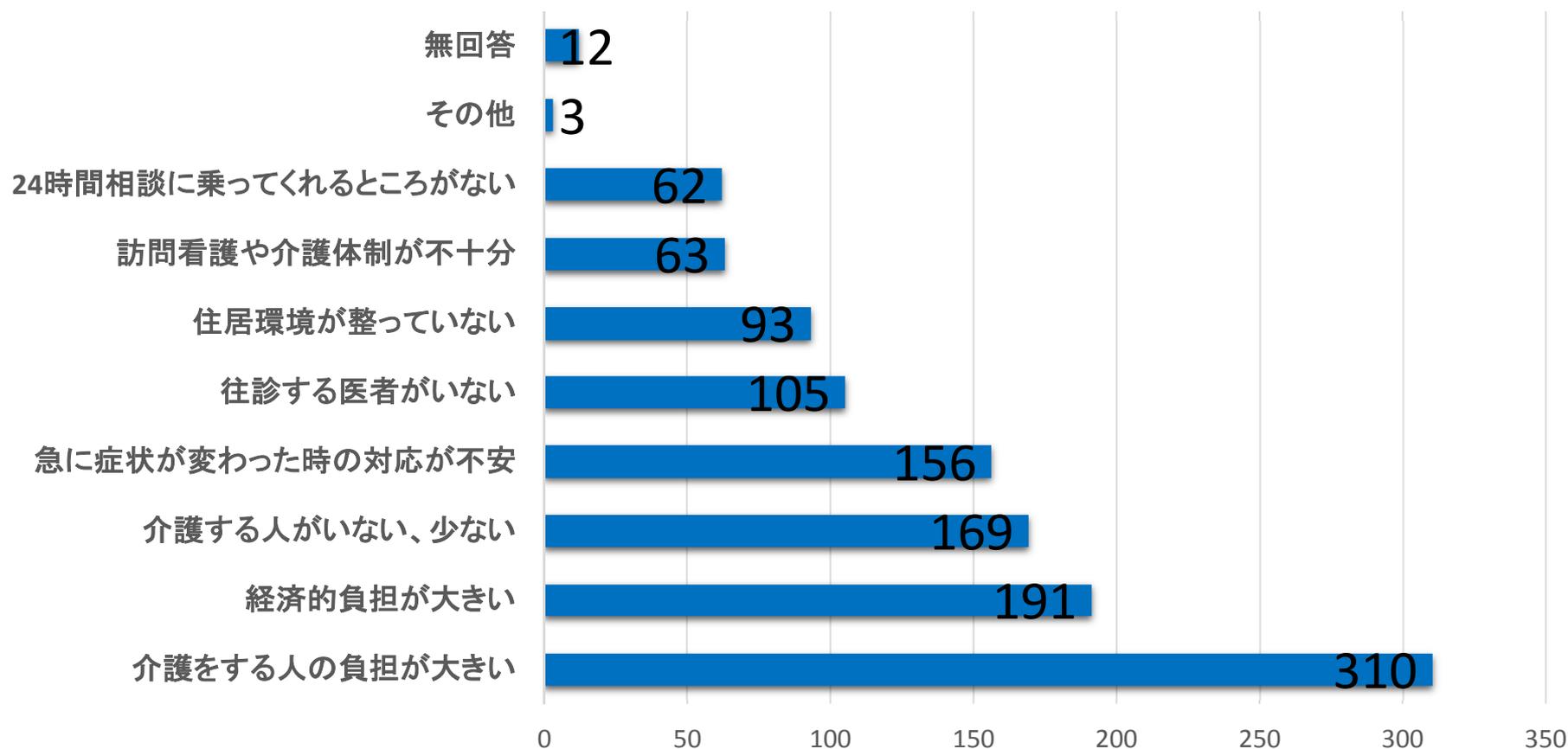
◎65歳以上の市民アンケート

Q1 脳卒中の後遺症やがんなどで長期の治療が必要となった場合、在宅医療を希望しますか。また実現可能だと思いますか。(回答者数796人)



データ:日南市高齢者等実態調査・日常生活圏域ニーズ調査【H26.7】
回答者:65歳以上の一般高齢者・要介護2以下の認定者(796人)

Q2. Q1で「希望するが、実現は難しい」、「希望しない」と思う理由は何ですか。
(回答者数428人、複数回答可)



データ: 日南市高齢者等実態調査・日常生活圏域ニーズ調査【H26.7】
回答者: 65歳以上の一般高齢者・要介護2以下の認定者(428人)

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域

- ◆ 地域の
- ◆ 必要は
- ◆ 結果を

共有の支援

- ◆ ス等の活用
- ◆ 情報共有を
- ◆ 報共有にも

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（ウ）は最後です

（イ）在宅

- ◆ 地域
- ◆ 課題の抽出、対応策

支援

- ◆ コーディ
- ◆ ・介護連携
- ◆ により、連携の

取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

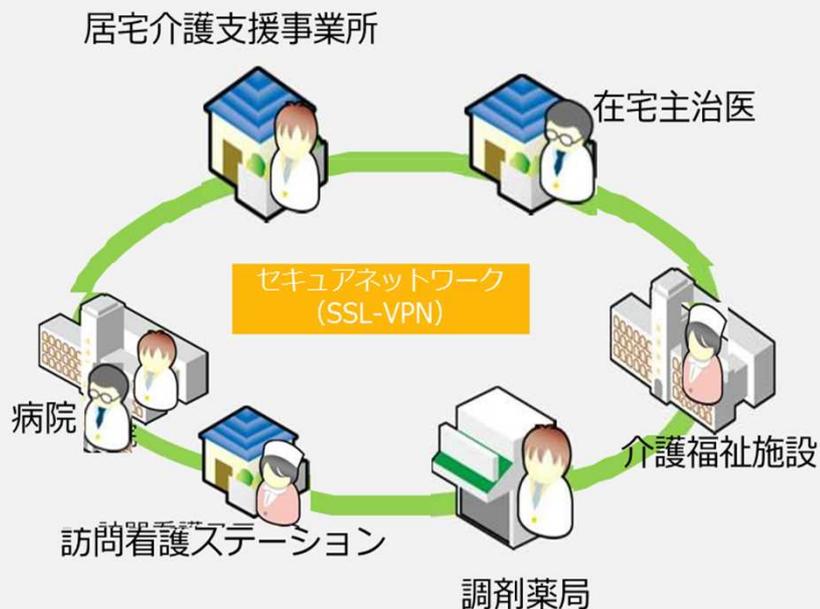
- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援

◎ICTシステムの導入支援

Net4U

医療・介護従事者のための患者情報共有ツール



○在宅現場における多職種のICTツールとして、患者情報共有システム (Net4U) の構築に関し、関係者への普及の支援を図る。



医療と介護を繋ぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク

ようこそ！ 河野 久仁子（市立中部病院）さん [ログアウト]



ホーム 患者 メール 招待 文書 参加者 お知らせ 操作履歴 設定変更

患者ID: 検索

患者情報



54498

生年月日

年齢

性別

住所

電話番号

治療中の病名

[目録 / 全て](#)

タグ

[介護保険なし](#)

[タグ編集](#) [編集](#)

共有ユーザー一覧

市立中部病院
すみれ大賞事務局

共有カルテ 診断名 アレルギー 検査結果 参照履歴 患者サマリ

カレンダーの表示/非表示

日別	月別	所見	処置	処方	検査	文書	招待	メモ
2016年								
11	9	1	1					6
10	4	1						4
09			2					
08		1						2
07								
06		1						1
05	1							3
04	1		1					2
03								1
02		1	2					3
01		1	2					3
2015年								
12								2

所見 処置 処方 検査 文書 招待 メモ

▼表示オプション

処方 市立中部病院

#	医薬品名	用量	単位	コメント
#1	コロナール細粒50% (後発品)	0.6	g	頓用 発熱時 5日分
#2	ケフゾールカプセル250mg	3	cap	1日3回 朝・昼・夕食後 3日分

あなたと 5 人が既読です

2016年11月01日 (火)

所見 H訪問看護ステーション

【全て見る】
今日の訪問の様子をご報告させていただきます。
左足の方は、創部も随分と小さくなってきましたが、まだ浸出液が多く見られました。
右足は、少し出血がありましたので、本日も綿花での圧迫処置を行いました。



Net4U利用状況

○登録・利用状況(平成28年度)

登録患者数	377人
-------	------

※地域内共有患者数は97名

種別	病院	診療所	歯科	薬局	訪問看護	包括
登録施設数	6／9	7／38	3／24	7／33	3／4	4／4

種別	居宅	特養	老健	訪問入浴	老人ホーム	行政	計
登録施設数	8／28	1／5	1／4	1／1	3／30	1／1	45／181

◎入退院調整コンセンサスブックの策定

要介護状態の患者の入退院における、病院とケアマネ間のお互いの着実な引継ぎを実現するために、情報提供手法等のルール作り(入退院調整コンセンサスブック)を県、日南保健所、串間市と共に策定



- 病院協議会 4回
- ケアマネ協議会 3回
- 病院・ケアマネ合同協議会 2回
- 代表者会議 2回



退院調整ルールづくりを契機とした顔の見える関係づくり

日南・串間医療圏における 入退院調整コンセンサスブック (ver.0.5)



平成 28 年 3 月

日南・串間医療圏における入退院調整コンセンサスブックについて

日南・串間二次医療圏域（日南市・串間市。以下「日南・串間医療圏」という。）は高齢化が進んでいる地域であり、医療と介護の連携推進は重要な課題となっています。

ここでいう「コンセンサスブック」は、要介護状態の患者さんが、病院に入院し自宅等へ退院するにあたり、医療と介護が連携し、入院から退院後の生活および療養を支えるため、病院とケアマネージャー（以下「ケアマネ」という）が確実に情報共有を図るためのルールをまとめたものです。

宮崎県医療介護連携調整実証事業に基づき、日南・串間医療圏の12病院と2市の地域包括支援センター及び事業所、施設のケアマネ等、約 名と地域アドバイザー 木佐貴 篤先生（県立日南病院 医療連携科部長）で協議を重ねて出来上がりました。

日南・串間医療圏の医療と介護を必要とする住民が、最期まで自分らしく暮らし続けるための地域包括ケアシステム構築の一環として、この「入退院調整コンセンサスブック」を参考として活用してください。



<効果>



- ▶ 要支援・要介護者 入院時情報提供率(ケアマネ→病院)
27年度 42.0% → 28年度 77.2% → 29年度 87.3%
- ▶ 要支援・要介護者 退院時情報提供率(病院→ケアマネ)
27年度 70.0% → 28年度 87.0% → 29年度 88.0%

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

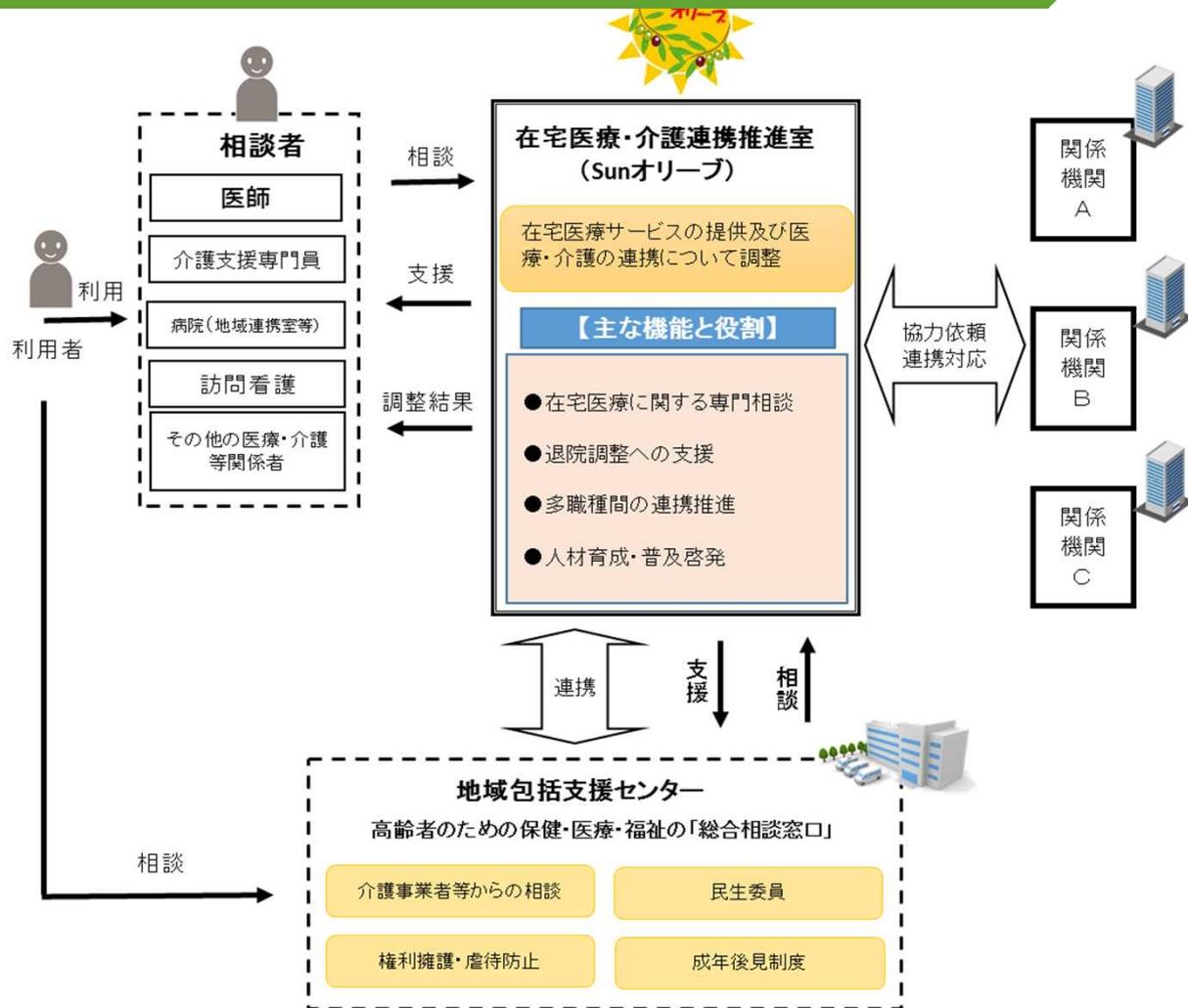
- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

(才) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

◎相談窓口の設置(27年11月)

○推進室に相談窓口を設置し、医療介護関係者や包括支援センター等からの相談の受付や情報提供を行う。

- ▶かかりつけ医がない。
- ▶在宅医療の相談。
- ▶訪問する歯科医師、薬剤師を知りたい。
- ▶介護施設を知りたい。



Sunオリーブ・地域包括支援センター連携シート

担当者 → 担当者

連携の目的	在宅医療	退院調整	その他
緊急性の判断	無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/>	(虐待 救急
			ターミナル その他

対象者

フリガナ 利用氏名	性別	生年月日	年齢
	男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/>	年 月 日	
住所	〒	連絡	

キーパーソンの有無 有 無

キーパーソン氏名	続柄	職業等
住所	〒	連絡
	同居の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	

要介護認定	有 (区分)	担当CM	無	申請中
障害自立度	自立	J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2		
認知症自立度	自立	I II IIa IIb III IIIa IIIb IV M		

医療情報	医療機関	連絡
	医療機関	連絡
	医療機関	連絡
既往歴等		

介護保険等サービス

相談内容及び連携事項

--

相談実績

☆27年度相談件数 8件

- ・往診依頼……………2件
- ・看取り・療養相談………2件
- ・主治医意見書、かかりつけ医がない
……………3件
- ・その他……………1件

☆28年度相談件数 2件

- ・往診依頼……………2件

☆29年度相談件数 4件

- ・他市からの介護施設照会……………1件
- ・在宅医療の相談……………1件
- ・リハビリ施設の相談……………1件
- ・在宅栄養管理教室の
講師派遣依頼……………1件

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

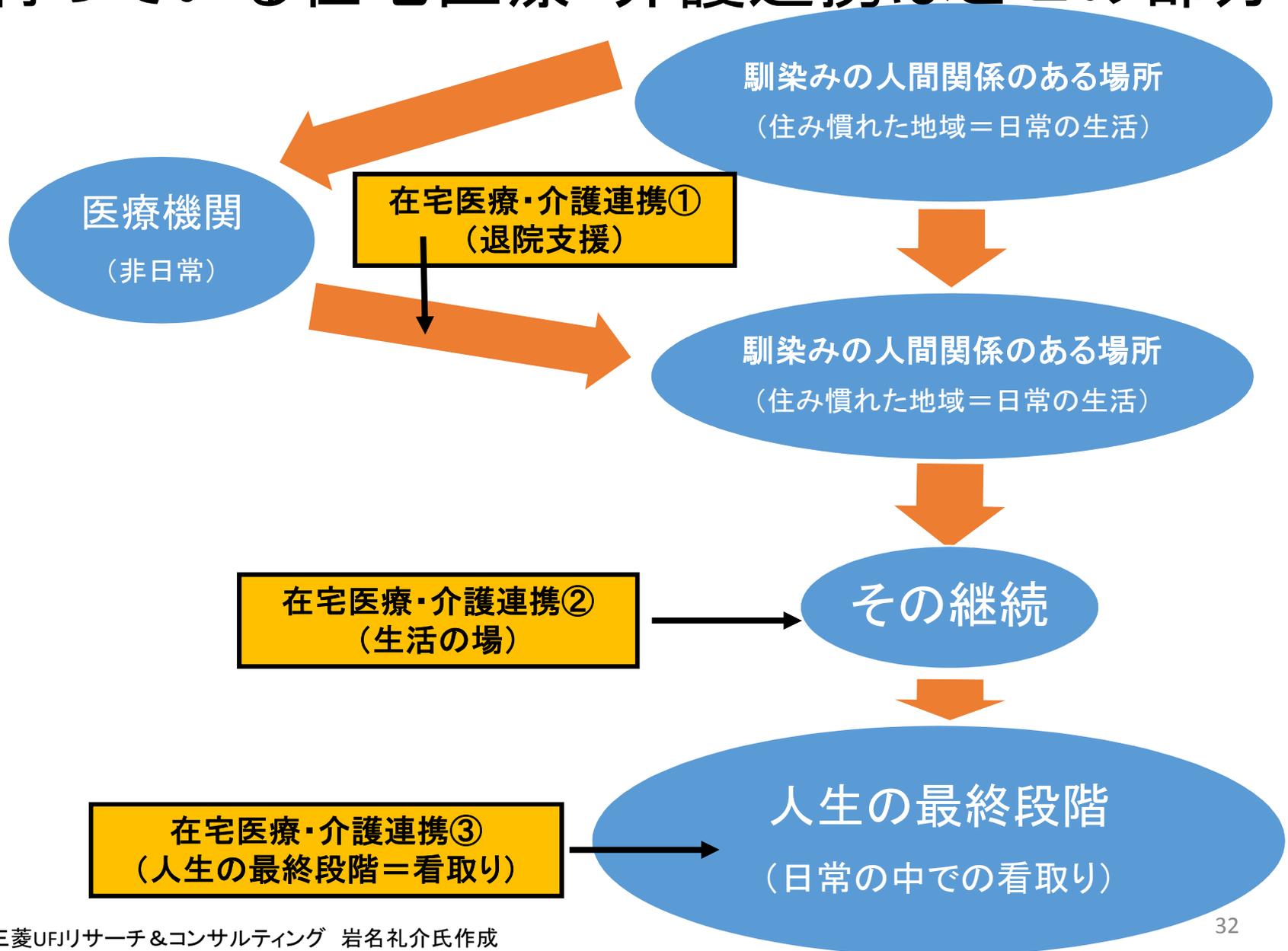
（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

今行っている在宅医療・介護連携はどこの部分？



在宅医療・介護連携を分解

多職種連携のテーマ	時間的特長	特徴
退院支援における多職種連携	短い (週単位)	<ul style="list-style-type: none"> ◆病院から地域へのソフトランディング(軟着陸)。 ◆病院の参加が不可欠であり、仕組みは地域全体になる。局所的な取組ではうまく機能しない。
生活の場における多職種連携	長い (年単位)	<ul style="list-style-type: none"> ◆多職種連携の本丸。予防的先回りのケアが求められ、介護職の役割は大きい。 ◆医師の役割は3つのカテゴリの中では相対的に小さい。
人生の最終段階における多職種連携	短い (週単位)	<ul style="list-style-type: none"> ◆在宅看取りは、ケアチームが形成できることが主眼。大病院の参加が前提ではない。生活の場における多職種連携の先にある。 ◆このステージでは在宅医療の占める割合が短期的に増大。 ◆局所的なベストプラクティスからスタートも可能。

(力) 医療・介護関係者の研修

◎ 多職種連携事業全般

【在宅医療・介護連携シンポジウム】

日時：27年7月11日(日)13:30～

参加：市内の医療・介護関係者122名

(1) 基調講演

「横須賀市における在宅医療・介護連携の取り組み」

①行政 横須賀市健康部 川名理恵子氏

②医師 前衣笠病院 大友 宣 先生

(2) パネルディスカッション

「日南市における在宅医療・介護連携の取り組みとこれから」

座長 県立日南病院 木佐貫篤先生

パネリスト 南那珂医師会 山元先生他

◎生活の場における多職種連携事業

りんりん

看看連携推進協議会「輪・輪の会」の発足<27年11月>

看護職が地域の医療と看護の連携構築になくてはならない存在として、看護職同士のネットワーク構築と、顔の見える関係づくりを目的として、市内の看護師有志による協議会の立ち上げ。

活動内容

シンポジウム、月1回の研修会、世話人会等

世話人会

市内の医療・介護施設等に勤務する看護師約10名。研修会のテーマは世話人会で決定し、Sunオーリーブは研修会の運営を担う。



日 程		内 容	講 師
第1回	28年2月	慢性心不全看護と認定看護師の活動について	県立日南病院 慢性心不全看護認定看護師 上野大助 氏
第2回	28年3月	感染管理と認定看護師の活動について	県立日南病院 感染管理認定看護師 谷口浩子 氏
第3回	28年4月	病院・施設・自宅で亡くなられた方のその後を引き継ぐ葬儀社の取組と思い	有限会社 天水 木脇嘉子氏
第4回	28年5月	アロマテラピーを学んで自分も患者さんもリラックス	市立中部病院 言語聴覚士 横山茂幹 氏
第5回	28年6月	日南地域の医療機関における災害対策について(避難場所や避難方法など)	日南市総務課危機管理室 作本和則 氏
第6回	28年7月	フットケアの方法や皮膚の観察 足のトラブルについて(巻き爪・胼)	市立中部病院 看護課長 山口康子 氏
第7回	28年8月	日南市の救急医療～急変・症状悪化時の観察、対応について～	県立日南病院 医療連携科 木佐貫篤 先生 日南市消防署 救急小隊 清水保行 指令補 百瀬病院 飛松正樹 先生 市立中部病院 診療課長 鈴木幹次郎 先生
第8回	28年9月	お悩み相談会	
第9回	28年10月	スキンケアトラブルの対処方法と予防策について	県立日南病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下嗣美 氏
第10回	28年12月	市立中部病院リハビリセンター 施設見学	市立中部病院 理学療法士 井上貴志 氏
シンポジウム	29年2月	日南市の医療の現状について考える～透析患者に焦点をあてて～	県立日南病院 井上圭子 氏 東内科クリニック 田村恵美 氏 日南春光会病院 濱田くみ子 氏 スマイルホームにじ 甲斐典子 氏 日南市健康増進課 河田真弓、小谷真由美 氏
第11回	29年3月	訪問看護師の役割と活動について	はまぼう訪問看護ステーション 野口初代 ⁶ 氏

◎生活の場における多職種連携事業

第1回日南市介護施設交流会 ～プロフェッショナル 介護の力～

日時：28年5月15日(日)13:00～

場所：南郷ハートフルセンター

参加：市内の医療・介護関係者約150名

(1)基調講演

「これからのCAREの話をしてませんか
小規模多機能を使った藤沢の事例」

(株)あおいけあ 代表 加藤 忠相氏



(2) 施設紹介ポスターコンテスト (33施設の参加)



(3) 交流カフェ



BINGO In 介護施設交流会

このBINGOカードは、15時10分より予定してあります交流会にて使用いたします。たくさんの方々と交流していただけたらと思い、企画しました。ビンゴのマス目の項目に該当する方と会話をしましたら、氏名欄に相手の方の氏名を記入してください。

※注意 複数該当する方がいても、書けるのは1ヵ所のみとします。1人の名前前で2カ所以上書かないように！

名前に〇子がつく 氏名【 】	男性の ケアマネジャー 氏名【 】	南郷地区にある施設・事業所の職員さん 氏名【 】	訪問系サービスの職員です！ 氏名【 】	ケアマナ歴10年以上！ 氏名【 】
医療・介護・福祉関係の職場に勤務して3年以内です。 氏名【 】	ラーメンが好きです。 氏名【 】	医師・歯科医師・薬剤師です！ 氏名【 】	日生生まれの日生育ち！！ 氏名【 】	リハビリのプロフェッショナルです。 氏名【 】
本日、日南市外から来ました！（通勤でも可） 氏名【 】	ご自身の名前を書き下さい。 氏名【 】	介護関係の仕事について10年以上になります 氏名【 】	笑顔がステキとよく言われます。 氏名【 】	笑顔がステキとよく言われます。 氏名【 】
看護師として働いています！ 氏名【 】	通勤時間が10分以上かかります 氏名【 】	犬を飼っています。 氏名【 】	相談員をしています。 氏名【 】	相談員をしています。 氏名【 】
本日、半袖を着ています。 氏名【 】	今日の朝食は、パンでした。 氏名【 】	介護職員として働いています。 氏名【 】	趣味はドライブ。 氏名【 】	趣味はドライブ。 氏名【 】

×、いずれか1列を揃えた方に、**先着30名様**にワシッスを差し上げるのじゃ。
を換え所までこの用紙を持ってくるのじゃ。



◎人生の最終段階における多職種連携事業

【在宅看取りを伴う在宅医療推進のための研修会】

日時：27年10月31日(土) 13:30～

参加：市内の医療・介護関係者約100名

(1)基調講演

「暮らしの中で逝くということ ～かあさんの家の実践から～」

NPO法人 ホームホスピス宮崎

理事長 市原 美穂 氏

(2)パネルディスカッション

「居住系施設で入居者に最期まで寄り添うためには」

座長 宮崎大学医学部地域医療・総合診療

医学講座 吉村 学 教授

パネリスト 訪問看護師ほか5名

宮崎日日

一人一人の物語大切に NPO理事長 在宅みとりで講演

在宅みとりを伴う在宅医療推進のための研修会「住み慣れた地域で最期まで安心して生き残るためには」は、日南市ふれあい健やかセンターでこのほどあった。医師らでつくる「日南での在宅看取りを考える会」主催。医療、介護



実践の在り方を紹介した市原理事長

施設関係者ら100人余りが出席した。がんや認知症で長期のケアが必要な高齢者が入居するホームホスピス「かあさんの家」を宮崎市内4カ所で運営している認定NPO法人ホームホスピス宮崎（宮崎市）の市原美穂理事長が講演。ある高齢者が入居後に笑顔や生活の能力、希望を取り戻す様子を映像を交えて紹介し「個別ケアは一人一人の生活のリズムにこちらが合わせることに。その人の人生の物語を大切にし意思を尊重する」のが重要と訴えた。「介護職は当たり前のことにこそ専門性が潜んでいる」とし、入居者の普段と違う点に気付く力や、それを的確に医療につなぐ力を磨くのが大切とも語った。

在宅みとりは「医療ではなく文化だ」と思う。医療はモニターを見るけれど、在宅は手を握ったり語り掛けながらその人の人生の最期をみとると強調。さまざまな入居者やその家族の実例を紹介すると、涙ぐむ参加者もいた。パネルディスカッションも

あり在宅医や訪問看護師、在宅みとりを経験した患者家族らが登壇した。（矢野大輝）

27年)11月15日 日曜日

◎生活の場における多職種連携事業

◎人生の最終段階における多職種連携事業

にちなん地域包括ケア学校 在宅ケアコース



にちなん地域包括ケア学校 在宅ケアコース

～みんなで学ぼう！在宅ケアのための多職種研修会～

全5回のシリーズ形式で多職種向けの研修会を開催いたします。地域全体のケアの質の向上や顔の見える関係づくりを目的としています。

●にちなん地域包括ケア学校 研修会スケジュール

第1回 平成28年4月28日(木)19:00～20:30 ※つわぶき会(認知症臨床研修会)と合同開催
テーマ「原因疾患別認知症ケア」

講師 松永 美根子 氏 医療法人 孔子会 介護老人保健施設 孔子の里(熊本県菊池市) 副施設長
会場 日南市ふれあい健やかセンター 5F会議室

第2回 平成28年7月1日(金)19:00～20:30

テーマ「命を受けとめる町づくり～在宅ホスピスのすすめ～(仮)」
講師 二ノ坂 保喜 先生 医療法人 いのちクリニック(福岡県福岡市) 医師
講師 寺 町 聡子 氏 医療法人 いのちクリニック(福岡県福岡市) 社会福祉士
会場 日南看護専門学校 2F講堂

第3回 平成28年9月8日(木)19:00～20:30

テーマ「栄養・褥瘡～在宅や施設での栄養管理や褥瘡予防・治療について～(仮)」
講師 日高 知子 氏 公益社団法人 宮崎県栄養士会 会長 管理栄養士
講師 清家 麻子 氏 社会医療法人同心会 古賀総合病院(宮崎県宮崎市) 皮膚・褥瘡ケア認定看護師
会場 日南市ふれあい健やかセンター 5F会議室

第4回 平成28年11月19日(土)13:45～17:10 ※ごんごん会(摂食嚥下勉強会)10周年記念大会と合同開催

第一部 講演「口腔ケアと飲み込みにくい方への支援」
講師 又川 亜紀 氏 医療法人わかば 大手門歯科クリニック(宮崎県日南市) 歯科衛生士
講師 服部 太志 氏 日南市立中部病院(宮崎県日南市) 作業療法士
講師 福松 飛鳥 氏 医療法人社団静健会 藤元上可病院(宮崎県那城市) 言語聴覚士
第二部 パネルディスカッション「食事が食べられなくなったら？あなたはどうしますか」
会場 日南市ふれあい健やかセンター 5F会議室

第5回 平成29年1月19日(木)19:00～20:30

テーマ「在宅リハビリテーション～回復期・維持期・在宅期リハ、自宅でできるリハ等～(仮)」
講師 又川 大樹 氏 日南市立中部病院(宮崎県日南市) 理学療法士
講師 海田 祥典 氏 株式会社ファミリー デイサービスセンター ファミリー(宮崎県日南市) 作業療法士
会場 日南市ふれあい健やかセンター 5F会議室

※Sunオーリーブホームページ <www.sun-olive.net> でも随時広報いたします。

主催 日南市在宅医療・介護連携推進協議会
問い合わせ先 日南市在宅医療・介護連携推進室(Sunオーリーブ)
TEL (0987)27-2020 FAX (0987)27-2479



※この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けています。

全5回シリーズの多職種向けの研修会。研修会の内容を実際のケアの現場で活用していただき、地域全体のケアの質の向上や顔の見える関係づくりが目的。

- (1) 在宅ホスピス 28年7月
- (2) 栄養・褥瘡 28年9月
- (3) 口腔ケア 28年11月
- (4) 在宅リハビリ 29年1月
- (5) 認知症 29年3月

29年度 Season2を開催

●にちなん地域包括ケア学校 Season2 研修会スケジュール

第1回 平成29年7月7日(金) 19:00～20:40

テーマ 「国・県における地域包括ケアシステム構築の取り組み状況」

講師 山内 強 先生 厚生労働省 九州厚生局 地域包括ケア推進課 課長

講師 甲斐 慎一郎 先生 宮崎県福祉保健部 長寿介護課 医療・介護連携推進室 主幹

会場 一般社団法人 南那珂医師会 2階会議室

第2回 平成29年9月8日(金) 19:00～20:30

テーマ 「宮崎大学における在宅医療などの人材育成の取り組み」

講師 吉村 学 先生 宮崎大学 地域医療・総合診療医学講座 教授

会場 日南市テクノセンター 3階会議室

第3回 平成29年11月1日(水) 19:00～20:30

テーマ 「『特定非営利活動法人つなぐ』の地域づくり、地域連携や在宅医療への取組」

講師 倉本 剛史 先生 特定非営利活動法人つなぐ 理事長 / 在宅とつながるクリニック天草 院長

会場 日南市テクノセンター 3階会議室

第4回 平成29年12月8日(金) 19:00～20:30

テーマ 「超高齢化地域、医療過疎・人材不足の中、地域を駆けめぐる活動(仮)」

講師 能勢 佳子 先生 鹿児島県肝付町役場 福祉課 参事 / 地域包括支援センター主任介護支援専門員 保健師

会場 日南市テクノセンター 3階会議室

第5回 平成30年3月3日(土) 13:00～

テーマ 「住民活動について知り、市民と対話をしていく重要性を知る(仮)」

講師 秋山 美紀 先生 慶応義塾大学環境情報学部/医学部 教授

講師 木佐貫 篤 先生 地域医療リーダー養成「日南塾」塾長 / 宮崎県立日南病院 医療連携科 部長

会場 日南市小村記念館(鉄肥城大手門横)

◎顔の見える関係づくり、意見の言える関係づくり

医療者・介護者・福祉者のための

ケアカフェ®

Blending Communities

カフェでのおしゃべりの
ような
オープンで自由な会話
から
生の意見交換や
新しい気づきが生まれ
る



ジャズの流れる和やかな雰囲気の中で議論を深めるケアカフェ参加者

約30人が参加し「介護」をテーマに自由に討論を行った。

小グループに分かれ自己紹介を行った参加者は、コーヒーや紅茶などを飲み、持ち寄った菓子を食べるなどして議論。和気あいあいとしながらも、議論は白熱し、話題

10/28(木) 日南 介護の苦労共有
日南関係者ら意見交換

医療や看護、福祉関係者らが集まり、テーマに沿った会話を楽しむ「ケアカフェ」は、22日、日南市のテクノセンタで開かれた。職場の垣根を越えて考えや意見、悩みを交わし、顔の見える関係づくり

「介護」をテーマに自由に討論を行った。

小グループに分かれ自己紹介を行った参加者は、コーヒーや紅茶などを飲み、持ち寄った菓子を食べるなどして議論。和気あいあいとしながらも、議論は白熱し、話題

日ごろのケアの相談や情報提供が目的とされるケアカフェは全国で開催されていて、同市で開催されるのは県内初。

医療・介護連携推進室（長嶋浅彦室長）が主催した。

は介護現場の現状や未来予想、家族の介護、障害児・者の介護など多岐にわたった。気楽な気持ちで参加できたという市内の養護老人ホームに務める栄養士の吉田長子さん(58)は「職場でもまれに介護の現場を手伝うことがあるが、あらためて現場で働く方の苦労を知った。(ケアカフェに)今度は同僚を連れて来たい」と笑顔で話していた。

同推進室では今後、2カ月に1度のペースでケアカフェを開催するといひ、次回は12月を予定している。

(松崎千穂)

ケア☉カフェの目的

顔の見える
関係をつくる

日頃の困りご
との相談場所

カフェでのおしゃべりのような
オープンで自由な会話から
生の意見交換や新しい気づきが生まれる

手作りの蝶ネクタイと エプロン



ミニレクチャー



<これまでのテーマ>

介護、連携、くすり、健康、災害、ホスピス、摂食嚥下、栄養、リハビリ、認知症、まちづくり、日南の未来等。

全体にシェア



◎多職種連携に関する広報チラシ



Sun オリーブ通信

日南市在宅医療・介護連携推進室 H29.10月発行 Vol.5

在宅療養を支える専門職をご紹介します -その3-

在宅療養では、さまざまな専門職が連携し、自宅や居住系施設を訪問して患者や家族をサポートします。今回は歯科医師と歯科衛生士についてご紹介します。

歯科医師

生きるうえで欠かせない食事や会話に大きな役割を果たす「口」全般を扱うスペシャリストです。
「歯科医師からのメッセージ」 『寝たきりの高齢者や障害者を持つ人など、訪問歯科診療を求めている人はたくさんいます。他の職種の方々とうまく連携をとりながら、口腔や食べることに関する不安や問題を一緒に解決するパートナーとして、貢献していきたいと思っています。』

歯科衛生士

歯科医師の補助だけでなく、歯科予防に関する処置や指導、嚥下機能の訓練・指導を行います。
「歯科衛生士からのメッセージ」 『口は消化器系の最初の入り口であり、呼吸・食事・発語を担う場所です。虫歯や歯周病以外にも、出血や骨折、窒息など命の危険に関わることもあることを理解してほしいです。多職種の方とは、患者様のために互いに意見を出し合える関係を築いていきたいと思っています。』



にちなん地域包括ケア学校 Season2 2時限目「宮崎大学における在宅医療などの人材育成の取組」宮崎大学医学部 吉村 学 教授

日南市版地域包括ケアシステム構築のための多職種向け研修会「にちなん地域包括ケア学校在宅ケアコース Season2」2時限目は、9月8日（金）テクノセンター会議室にて開催し、40名の参加がありました。医師・歯科医師などの医療職、介護職のほか、県議会・市議会議員、事務職、高校生など、多種多様な方々が出席され、吉村先生の講演のあとには、参加者との意見交換も行われ、充実した90分となりました。

現在の宮崎大学では、本格的な地域医療の講義や臨床実習に力を入れ、地域医療実習先も南那珂地区から県内全域（11箇所）まで拡大しているとのことでした。また、医学生と看護学生が混ざりながら学ぶ「ごちゃまぜIPE」は、今や全国から注目されている研修です。



第13回「ケアカフェにちなん」 テーマ「日南の未来」

10月19日（木）、油津 Yotten に、医師・歯科医師6名を含む35名の多職種が集まり、日南の未来について語り合いました。嶋田市長によるミニレクチャーでは、現在、市が抱えている様々な課題がある中で、民間企業とタッグを組んで展開している「こども食堂」や「遠隔診療」等の事例などを交えながら、今後の本市のビジョンなどについて熱い講義を受けることができました。ありがとうございました。



第17回「輪・輪の会」研修会 テーマ「特定検診と保健指導について」

9月21日（木）、テクノセンターに、市の健康増進課所属の保健師、荒木光恵さんと田中裕美さんをお招きし、①特定検診結果から見える日南市の特性、②市の特定検診と医療機関の検診の違い、③実際の保健指導の状況などについて、大変詳しく講義を行っていただきました。市のこれまでの保健指導は、〇〇教室といった形で行われていたのですが、様々な反省に基づき、現在は特定検診の個人データを分析し実際に家庭訪問を通しての指導を中心に行っているとのことでした。今後も生活習慣などにおいて相談がある場合は、市の保健師や管理栄養士に遠慮なく尋ねて欲しいとのことでした。



研修会・市民公開講座等のお知らせ

いずれも
入場無料です

にちなん地域包括ケア学校 在宅ケアコース Season2 <3時限目>

テーマ『NPO法人つなぐ』の地域づくり、地域連携や在宅医療への取組
 講師：NPO法人つなぐ 理事長 / 在宅とつながるクリニック 天草 院長 倉本 剛史 先生
 日時/会場：11月1日（水）19:00～20:30 / 日南市テクノセンター3階会議室
 問い合わせ・申込み：Sun オリーブ ☎27-2020

認知症臨床研究会（つわぶきの会）市民公開講座

内容◆基調講演「認知症について（仮）」宮崎県認知症疾患医療センター 大悟病院長 井上 輝彦 先生
 ◆事例発表「認知症デイケアやもの忘れ外来の取組について」
 けんなん病院、谷口病院、おび中央病院、中部病院
 日時/会場：11月18日（土）13:30～16:00 / 日南市文化センター
 問い合わせ・申込み：日南市長寿課 ☎31-1162

第18回「輪・輪の会」研修会

内容：「遺族ケア、根拠に基づくエンゼルケア」
 講師：有限会社 エル・プランナー（東京都杉並区） 橋本 友希 先生
 日時/会場：11月30日（木）19:00～20:30 / 日南市テクノセンター3階会議室
 問い合わせ・申込み：Sun オリーブ ☎27-2020

公開講座「フラスアルファ」 第3回学生市民・地域医療連携フォーラム日南

全国の市民活動を油津で学ぶチャンスです。
 ★日時 12月9日（土）13時～17時
 ★プログラム
 13:00～講義「福井県高浜町における市民啓発活動」
 福井大学医学部 地域プライマリケア講座/
 高浜町国保和田診療所 井階 友貴 先生
 13:30～シンポジウム
 医療×介護×街づくり×？=
 各地の実践報告よりTTPしよう！
 ～鶴岡・倉敷・新潟・宮崎・鹿児島からの報告～
 16:00～ディスカッション コーディネーター：木藤 良太 氏
 18:00～懇親会
 ★会場 油津 Yotten
 ★参加費 一般 2,000 円/NPO 会員 1,500 円/学生 1,000 円
 ※懇親会費は別途 4,000 円
 ★定員 90名
 ★主催 NPO 全国連携実務者ネットワーク
 ★運営 にちなん医療市民サポーターズほか
 ★申込み 県立日南病院医療連携科 ☎21-1637 〆切 11/24

今後のスケジュール

日程	内容
11月1日（水） 19時～	にちなん地域包括ケア学校 3時限目 「NPO法人つなぐ」の地域づくり、地域連携や在宅医療への取組【テクノセンター3階】
11月10日（金） 19時～	にちなんもちよりカフェ 【油津 Yotten】
11月14日（火） 19時～	在宅ケア研究会 【南那珂医師会】
11月18日（土） 13時半～	つわぶきの会市民公開講座 【文化センター】
11月30日（木） 19時～	看看連携「輪・輪の会」研修会 「遺族ケア、エンゼルケア」【テクノセンター3階】
12月8日（金） 19時～	にちなん地域包括ケア学校 4時限目 「超高齢化地域、医療過疎・人材不足の中、地域を駆けぬぐる活動」【テクノセンター3階】
12月9日（土） 午前中	認知症徘徊者捜索模擬訓練【吉野方地区】
12月9日（土） 13時～	第3回学生市民・地域医療連携フォーラム 【油津 Yotten】
12月14日（木） 19時～	日南車間合同在宅ケア研究会・忘年会 増玉県幸手市 中野智紀医師による講演会（予定）【新緑・日南】
12月調整中 19時～	ケアカフェにちなん 【油津 Yotten】
12月21日（木） 19時～	看看連携「輪・輪の会」研修会 「お悩み相談会、交流会」【テクノセンター3階】

※各研修会の詳細については、Sun オリーブホームページでも案内しています。研修会によっては、事前申込が必要なものもあります。

Sun オリーブ（日南市在宅医療・介護連携推進室）

〒889-3141
 日南市大堂津五丁目1番1号（日南市立中部病院内）
 TEL（0987）27-2020
 FAX（0987）21-4722
 E-mail：zaitakuiryo@city.nichinan.lg.jp
 URL：http://www.sun-olive.net/



在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

(キ) 地域住民への普及啓発

◎ホームページによる情報発信

在宅療養に関する情報提供や市内の医療・介護機関のマップの掲載、サービス内容の紹介を行う。

<http://www.sun-olive.net/>

日南市
在宅医療・介護連携推進室
Sunオリーブ

サイト内検索

ホーム 新着情報 コンテンツ カレンダー お問合せ

メインメニュー

- ごあいさつ
- Sunオリーブのお仕事
- 総合相談窓口
- 在宅医療地域資源マップ
- 活動報告
- お問い合わせ

Sunオリーブのホームページへようこそ！

「最後まで家で暮らしたい」
その想いを、多職種が連携しながら支えます。

名前の由来 ~Sunオリーブ~

推進室を中心とした太陽が「さんさん」とネットワークの光を降り注ぎ、多職種の機関である「オリーブ」の枝葉が連携機能を発揮しながら大きく育つことにより、在宅において医療・介護等を求める方々の安らぎや健康という実をつけることを願います。
オリーブの木が実を付けた後は、その実からオイルを取ります。これは「老いを取る」ということに繋がります。

お知らせ

- 12月9日「第245回 日南在宅ケア研究会」のご案内(2015-10-29)
- 12月17日「第2回 ケアカフェにちなん」のご案内(2015-10-29)

個人情報保護方針 | アクセス | サイトマップ

◎市広報誌「好きですにちなん」を活用

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを



自宅での療養について

全国的に、急速に高齢化が進んでおり、人口が減少している中、本市においても、65歳以上の高齢者人口比率は、本年度で34・8%なのに対し、団塊の世代が75歳になる平成37年（2025年）には4割を超えることが予想され、疾病や要介護状態にある高齢者数が大幅に増加することは避けられない状況

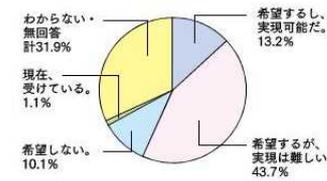
そのような中、病気になるたり介護が必要になっても、住み慣れた場所ですら自分らしい生活をしたという希望や、在宅で最期を迎えるという選択肢を実現するためには、在宅療養の環境について知り、どんな準備をしなければいけないか考えてみませんか。

在宅療養を5割以上が希望

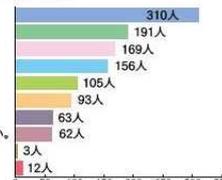
市では、昨年7月に65歳以上の一般高齢者と介護保険認定者を対象にアンケート調査を実施しました。在宅医療について尋ねたところ、「希望するし、実現が可能な」と現在「受けている」と回答した人が14・3%。「希望するが、実現は難しい」と答えた人が43・7%。また「希望しない」と答えた人は10・1%でした。

「実現は難しい」「希望しない」と答えた人の在宅療養への戸惑いの要因については、介護する人への負担が大きいこと、また、介護

Q1. 脳卒中の後遺症やがんなどで長期の治療が必要となった場合、在宅医療を希望しますか、また実現可能だと思いますか。(回答者数：796人)



Q2. Q1で「希望するが、実現は難しい」、「希望しない」と思う理由は何ですか。(回答者数：428人、複数回答可)



高齢者福祉に関するアンケート調査 (対象者数1,517人・回答者数796人・回答率52.47%)

在宅療養を支える専門職

在宅療養では、様々な専門職が連携し、自宅を訪問して患者や家族をサポートします。在宅療養での医療と介護のサービスにも、医療保険（健康保険）や介護保険が適用されます。

- 在宅医
患者宅を訪問し、医療を行う医師です。痛みを緩和したり、生活しやすいように配慮したり、療養生活を支える医療を行います。
- 訪問看護師
患者の健康チェックや日常生活のケア、医師の指示による医療処置をします。
- 薬剤師

患者宅で薬の飲み方の指導・相談、残薬チェックや薬の管理をします。

- 歯科医師・歯科衛生士
患者宅で虫歯の治療、入れ歯の調整、口腔ケアや嚥下（飲み込み）機能の改善訓練などをします。
- 介護支援専門員（ケアマネージャー）
要介護認定を受けた人や家族と話し合い、介護計画（ケアプラン）を作成し、必要な介護サービスを手配します。
- 訪問介護員（ホームヘルパー）
ケアプランに基づいて、家事援助、身体介護、食事介護など日常生活をサポートします。

「自分らしい最期」を考えることは「自分らしい生き方」を考えること

誰にでも訪れる人生の終末期をどこで迎えるのか。医療と介護を受けながら住み慣れた我が家で暮らす「在宅療養」も一つの選択です。自分や大切な人の「死」を想像することは、とても辛いことかも知れませんが、「自分らしい生き方」について考えることは「自分らしい人生の最期のあり方」「自分らしい生き方」を考えることでもあります。自分はどうしたいか、大切な人をどのように看取ってあげたいか、身近な人々と話し合いを始めてみませんか。

相談できる窓口があります

- 病院内の相談室
病院にもありますが、院内に退院後の在宅療養や心配事についての相談窓口があり、相談員が対応します。
- ケアマネージャー
すでに介護認定を受けてケアマネージャーが関わっている場合は、在宅療養の相談に応じます。
- 地域包括支援センター
住み慣れた地域で生活を継続できるように、支援を行う地域の拠点として設置されています。市内に4カ所設置されていますので、お住まいの地域を担当するセンターに相談してください。

桐ヶ谷 大淳
中部病院医師



「中部病院は在宅療養の相談に乗ります」
市立中部病院は、平成25年4月に「在宅療養支援病院」として認定され、患者や家族などの求めに応じ、24時間365日対応が可能な体制を確保しています。中部病院医師で在宅医療に精力的に取り組まれている桐ヶ谷大淳先生にお話をうかがいました。

超高齢社会となり、何らかの病気を抱えながら生活する人や介護を必要とす人が増えています。その中でも住み慣れた場所で暮らし続けたいという声は多く、その要望に応えるためには医療と介護の連携、在宅医療といったものが重要であり、日南市でもさまざまな取り組みが行われています。

医療機器の進歩もあり、在宅においても病院に近い医療の提供が可能になってきています。外来通院が難しくなっても住み慣れた場所で療養したい、場合によっては最期まで、という気持ちがあれば、まずはかかりつけの医の先生に相談をしてみよう。

市内の地域包括支援センター

地区	担当地区	電話番号
北地区	飲肥、酒谷、北郷	25-0408
東地区	油津、東郷、鶴戸、吾田の一部（中平野、桜ヶ丘、松原団地）	23-6099
中央地区	吾田（上記を除く）、細田（下方、塩崎、大堂津1区～3区を除く）	22-3301
南地区	南郷、細田の一部（下方、塩崎、大堂津1区～3区）	64-3178

◎地域への出前講座「在宅で過ごすために」

<要領>

- ▶公民館単位
- ▶30分～60分
- ▶講話、ムービー
- ▶質問



<実績>

- ▶27年度
5地区150名
- ▶28年度
4地区100名
- ▶29年度
3地区150名

<市民に訴える内容>

在宅看取りは、「結果」

- ・最後まで在宅、というのが必ずしも良いわけではない。(在宅看取りは目標ではなく、最期まで在宅で生ききった結果)
- ・本人や家族にとって、穏やかに最期の日々を過ごすことのできる一番良い場所、方法を一緒に考える

大事ななのは、考え話しあうこと

よりよい最期・看取り

答えは、その人自身と家族の中に

× 先生におまかせします

○ 本人・家族・関係者が対話を重ねて、思いに寄り添うこと

市民公開講座

「住み慣れた地域で安心して暮らすために」

▶滋賀県永源寺診療所長
花戸 貴司 医師

「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」

▶写真家・フォトジャーナリスト
國森 康弘 氏

「写真が語る、いのちのバトンリレー～あたたかな
看取りの現場から～」

平成 28 年度日南市在宅医療・介護連携推進事業 市民公開講座

住み慣れた地域で 安心して暮らすために

在宅医療と
在宅看取りを
考える



写真絵本『いのちづく「みどりびと」』（国森康弘 著、農文協、第8巻）の第1巻「おちゃんをはじめの看取り」より

アトラクション 12:30～13:00 30分

講演Ⅰ 13:00～14:20 80分

講師：滋賀県東近江市永源寺診療所長 花戸 貴司 医師
演題：「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために」



講演Ⅱ 14:35～15:55 80分

講師：写真家、フォトジャーナリスト 國森 康弘 氏
演題：「写真が語る、いのちのバトンリレー ～あたたかな看取りの現場から～」



対談 16:10～16:40 30分

花戸貴司氏 × 國森康弘氏 × 島田雅弘氏（南那珂医師会長）
進行：木佐貫ひとみ氏（フリーパーソナリティー）

平成 29 年

2月 26 日（日）12:30～16:40（開場12:00）

日南市文化センター 日南市中央通一丁目7番地1

主催/日南市

後援/(一社)南那珂医師会、(一社)日南歯科医師会、日南薬剤師会、日南市介護支援専門員連絡会、
(公社)宮崎県看護協会、日南保健所

入場無料

申込(電話かメール又はFAX)

定員600名

◎高校生を対象とした地域医療講座

メディカルサイエンスユースカレッジ



将来、医療関係で働きたい人、集合！

将来は医療関係に携わりたいけれど、
具体的にどんな仕事があるんだろう？

日南の医療現場って、
実際のところどうなってるの？

そんな疑問や不安、ここで解消！

病院見学やグループワークなど2日間の研修を通じて、同じ目標を持つ仲間たちと学べる、またとない機会です。初めての方はもちろん、2度目の参加も大歓迎！ぜひ、参加を！

- ◆開催日程 / 8月4日(金)~8月5日(土) 2日間
- ◆会場 / 日南市立中部病院(1日目)、生涯学習センターまなびピア(2日目)
- ◆内容 / 1日目: 講話、病院見学、各職場のプレゼン等(9時30分~16時30分)
2日目: 初日の振り返り(8時45分~12時00分)
- ◆対象 / 高校生
- ◆参加料 / 無料(ただし会場までの交通費及び1日目の昼食は各自で負担・準備してください。)
- ◆申込方法 / 「参加申込書」と「保護者承諾書」を下記の申し込み先までご提出ください。

申し込み・お問合わせ: 日南市健康増進課 地域医療対策室
TEL: 31-1129 FAX: 31-1966 E-Mail: t-iryuu@city.nichinan.lg.jp

地域医療について学び・触れる機会を提供することで、将来医療従事者として地域に貢献する人材の発掘及び育成を図ることを目的に開催。

【対象】

- ・市内に居住する高校生

【内容】

- ・医療に関する講義
- ・グループワーク
- ・中部病院見学及び職業紹介

【日時】

- ・8月4日(金)9時30分~16時30分
- ・8月5日(土)8時45分~12時00分

◎市民を対象とした地域医療講座

地域医療リーダー養成「日南塾」

市民を対象に地域医療をテーマにしたシリーズ形式の勉強会を行い、住民への啓発、住民ニーズの把握を行うとともに地域医療に対するリーダーの育成を図る。

○塾長：県立日南病院地域連携科 木佐貫医師

○参加人数：19名（NPO、教員、医療職、行政職等）

○テーマ：

第1回：地域医療の現状と課題

第2回：地域包括ケアシステム

第3回：お薬手帳、子育て環境と子どもの医療
日南で子育てする

第4回：在宅での看取りについて

第5回：発表報告会準備

第6回：発表報告会準備

○発表会

平成27年3月7日（土）予定

各グループによる取組発表、市長への提言等

※他団体の活動報告、講演会、座談会も同時開催



日南市
地域医療の現状知って
リーダー養成講座開講

地域医療について日南市民に知ってもらおうと日南市は、このほど、地域医療リーダー養成講座「日南塾」を開講した。受講生には、講座を通じて学んだ地域医療の現状や課題を、職場や家庭などで発信するオピニオンリーダーとしての役割が期待されている。同講座は、限りある医療資源を地域の財産として大切に

最後に発表報告会を行った。受講者は、市内のNPO法人や病院、学校関係者ら約40人。今後は、「高齢化社会に向けて」「在宅での看取り」に向けて、「在宅での看取り」をテーマに、

にちなん医療市民サポーターズ



- 1 **ビアパーティー**
29年7月28日
- 2 **AED取扱研修会**
29年7月31日
- 3 **医学生との交流会**
29年8月24日
- 4 **出前講座**
29年8月27日
- 5 **大人の修学旅行**
29年10月13日～15日
金沢市(元ちゃんハウス、佛子園)

日南塾修了生で構成されている市民団体。
平成29年5月16日に設立。会員数28名。
地域医療の啓発活動や研修会等を実施予定。

年会費2千円

次第に広がってゆく多職種連携

<市内で見え始めた変化>

様々な団体が独自に多職種連携の取り組みを展開し始めた!!

- ▶子どもケアカフェの発足
- ▶日南持ち寄りカフェの発足
- ▶医療法人が地域包括ケアシステムに関する市民公開講座を開催
- ▶市内の看護職同士の勉強会が発足
- ▶理学療法士会よりイベントの相談
- ▶摂食嚥下支援団体よりイベントコラボの相談
- ▶医師会が「在宅主治医不在時のサポート体制」を提案



いつの間にか
(ウ)が...

在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目の一部を郡市区医師会等（地域の中核的医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

最後に（ウ）ができた

（ア）

- ◆ 地
- ◆ 必
- ◆ 談
- ◆ 結

（イ）

- ◆ 地
- ◆ 開
- ◆ 課

取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

(ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

◎在宅・救急医療機関連絡協議会の発足(28年2月)

実施主体:南那珂医師会

メンバー:「在宅医の会」医師12名、救急医療機関医師5名、消防本部、行政

内 容 :在宅医療を受けている患者の急変時に、滞りなく対応できる体制整備を目的。

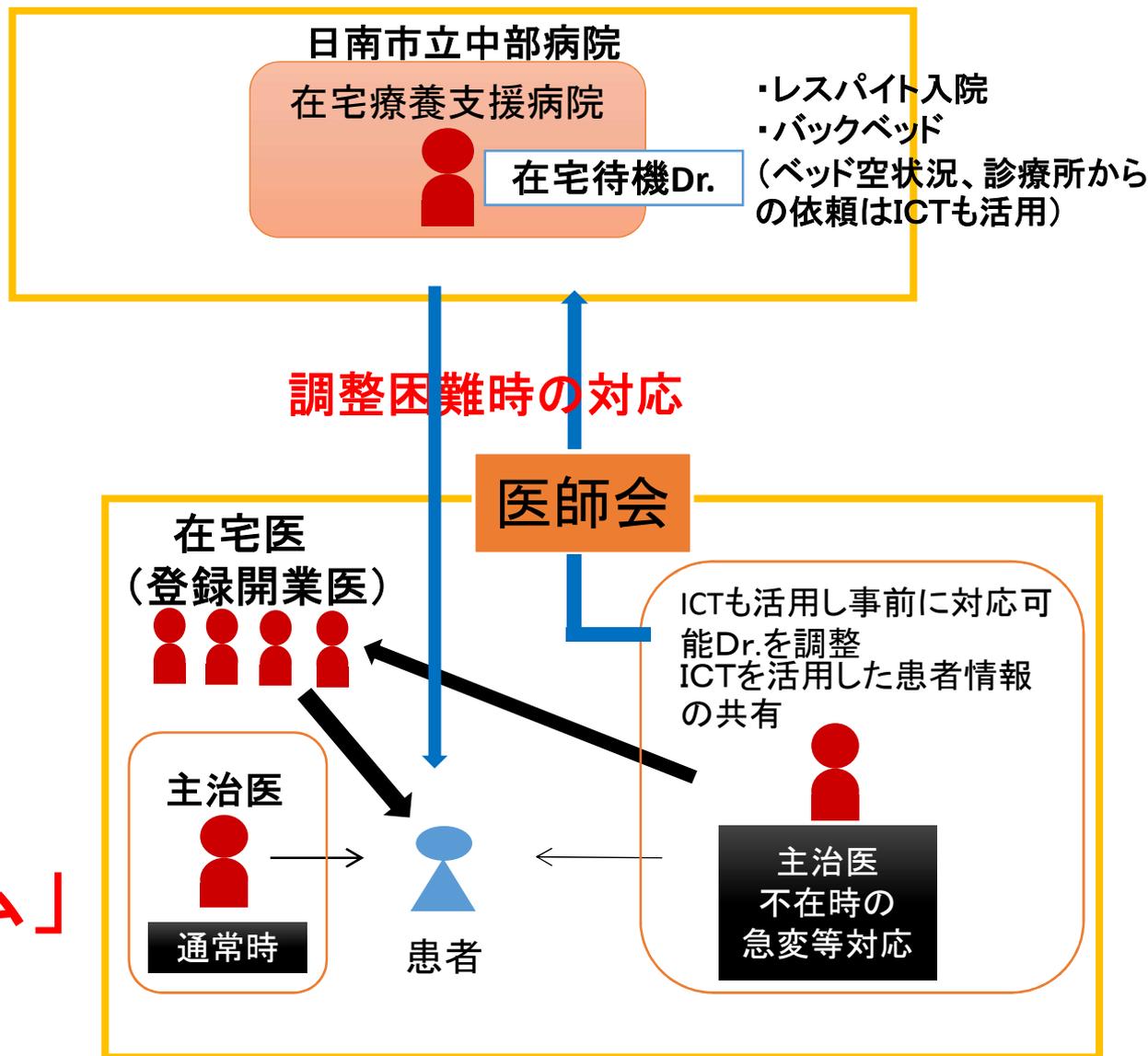
◎在宅主治医不在時のサポート体制構築

H30.4稼動目指す

主治医不在時のサポートルールについて、全国の先進事例を参考に日南独自のルール作成について協議をすすめる

「諭吉システム」

(医師会長 命名)



地域包括ケア時代における 行政の役割

- ・専門職が考えるアイデアをかたちにする
- ・かたちづくり、システムづくり
- ・幅広い経験やつながりで多産業をつなぐ
- ・医療介護に関わる体制を支援する

強み：様々な領域を経験し多産業とのつながりが広い

弱み：数年で異動するため専門性が低い

（特に医療政策に詳しい職員がいない）

地域包括ケアとの連携が必要な行政の部署・機関

地域交通

- ・コミバス
- ・代替交通

県警

- ・高齢者免許
- ・消費者被害

健康増進

- ・健康づくり
- ・疾病対策

スポーツ振興

- ・生涯スポーツ
- ・ロコモ

and more...

子ども支援

- ・母子
- ・貧困

高齢者対策

- ・いきがい
- ・権利擁護

介護保険

- ・地域ケア会議
- ・介護予防
- ・認知症
- ・生活支援
- ・医療介護連携

市立中部病院

- ・入退院時連携
- ・在宅支援

国保

- ・医療費適正化
- ・特定健診

税

- ・非課税世帯

生涯教育

- ・いきがい
- ・地域コミュニティ

医療政策

- ・医師確保
- ・地域医療構想

危機管理

- ・災害弱者

商業

- ・商店街活性化
- ・買い物弱者

都市計画

- ・コンパクトシティ

生活保護

- ・生活困窮

障がい者福祉

- ・自立支援
- ・永続的支援

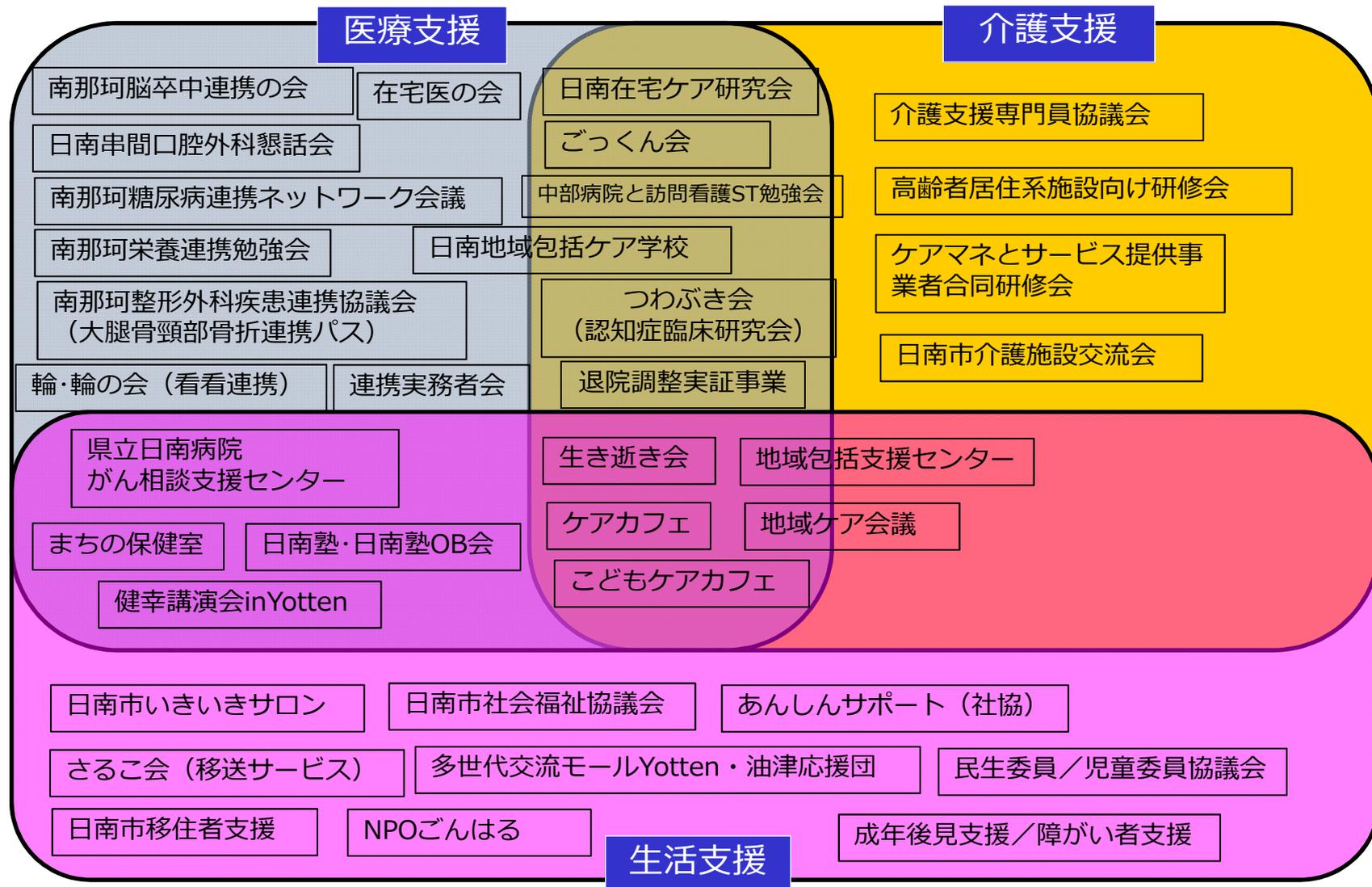
農業

- ・障がい者雇用
- ・コミュニティ再生

日南市における地域包括ケアシステムへの取り組み

(2015/04/17 県立日南病院 木佐貫篤 医師作成、16/06/09修正)

コア組織：地域医療対策室、中部在宅医療・介護連携推進室、地域包括支援センター、県立日南医療連携科



～ 今後に向けて ～

- ひと通り、取り組んではみたが継続性が大事。
- なかなか成果の見えない項目も多い。



●地域住民への普及啓発

在宅医療は一つの選択肢であるが、在宅医療を継続するために、患者とその家族にどのような準備をすればよいか理解いただくことが重要

〈例：地域出前講座、在宅医療ガイドブック〉

●これまでの取り組みに満足せず、医療・介護関係者そして市民のみなさまと連携し、自分らしく最期まで暮らせるまちづくりを進めたい。

ご静聴ありがとうございました。